

えいらい

No.26

平成 28 年 1 月発行
発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院



〒790-0067 愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者／院長 山本祐司 編集／松山市民病院広報委員会

松山市民病院創立60周年の 還暦を迎えて

～「共有、理解、行動」のスローガン～

理事長・院長 山本 祐司



2016(平成28)年の新春を迎え、今年が幸多き一年になりますよう、心からお祈り申し上げます。地域の医療機関や関係各位の皆様には、日頃より救急医療や専門医療の地域連携を通じて松山市民病院が大変お世話になり感謝申し上げます。

昨年、日本列島では火山爆発や豪雨など、地殻変動や温暖化による自然災害などが続きました。政治経済では、金融緩和による円安、株乱高下、外国人観光客増加や爆買いにもかかわらず中国経済は減速し、国内は2四半期にわたってGDPマイナスとなり、消費や設備投資は伸びず実体経済は停滞しています。

一方で、日本人2人のノーベル賞受賞が続き、ラグビーワールドカップでの日本チームの活躍やフィギュアスケート世界最高得点の連発などには多くの国民が勇気付けられました。

医療界では昨年末、「税と社会保障の一体改革」の流れを受け、2016年度診療報酬は全体で0.84%引き下げるマイナス改定となることが決定されました。医師・薬剤師等の技術料など「本体」部分は0.49%(約500億円)と微増になるものの、「医薬品」など薬価部分は1.33%(約1400億円)引き下げられることとなります。

社会保障費の自然増抑制と介護離職ゼロ政策とは矛盾を感じる一方で、地域医療構想と地域包括ケアシステム、医療事故調査制度、新専門医制度など山積する改革も続きます。

さて当院では、昨夏の新南(S)病棟のグランドオープンのおと、暮れにはN棟の1、2階の外來改修と東部分の渡り廊下が完成し、明るい中庭を眺めながら

スムーズにヒトが動けるようになりました。また、ER(救急科)センターも救急車専用口から東部分が改修され、ウォークイン救急患者の診療スペースも余裕ができました。管理棟(永頼会館)も内部改修を進め、事務局、医局、臨床研修室、図書室など春からの新年度に向け整備中です。

今年6月に、松山市民病院は創立60周年、丙申(ひのえさる)年の還暦を迎えます。「市民による、市民のための」松山市民病院として、協同組合立でスタートしたのが1956(昭和31)年6月1日でした。その8年後の1964(昭和39)年に財団法人永頼会が設立され、永頼会松山市民病院となり、今年は永頼会52周年にも当たります。病院創立以来、木造、鉄骨、鉄筋と次々に増築され、管理棟、北(N)棟、南(S)棟とこのたび建替え二巡目が終わりました。航空写真撮影や定礎式など内輪の記念行事で祝いたいと思います。

今年の病院スローガンは、「共有、理解、行動」を掲げます。英語では、sharing, understanding and actionとなります。病院医療における情報・知恵の「共有(シェア)」を図り、医療人としての「理解と行動」ができる、すなわち各部署で自分の担当業務の内容が「分かって動ける」—そのことがヒトのためになっているという自覚と誇りを持ってほしい—という願いであります。

申(さる)年のもつ、「頭の回転の速さと行動力」の特徴を発揮して、職員一同、職場のあらゆる場面で今年のスローガンの「共有、理解、行動」に努めてまいりたいと思います。

今年も松山市民病院との交流・連携をよろしくお願い申し上げます。

撮影：形成外科／手塚 敬 (菖蒲峠から石鎚山)